

Open Innovation

オープン・イノベーション

2021.12.17開催 tsumiki オープン・イノベーションセミナー
株式会社日の丸ディスプレイ仙台見学ツアー

地域産業を知る工場見学 企業の技術やノウハウを 体感しよう

株式会社日の丸ディスプレイ仙台

2021年度のtsumikiオープン・イノベーションセミナーは、町内企業見学ツアーとしてtsumikiを飛び出し、しらかし台団地に工場を構える株式会社日の丸ディスプレイ仙台を訪れました。

見学ツアーには、利府町内外から経営者や個人事業者、企業の社員など11名が参加。普段なかなか立ち入ることができない工場内部を、取締役営業部長兼管理部統括の遠藤弘さんに案内していただきました。日の丸ディスプレイ仙台は、屋外広告看板製作会社。看板・各種サイン製作の一次工程から最終工程・納品までのすべてを自社内で一貫生産をしているものづくり企業です。製品が完成品になるまでの工程を見学し、企業間のスキル、ノウハウなどを活かす合う地域の新しいビジネスの可能性を探りました。

利府町のんびりまち歩き

案内人 ● Carlotta 大宮紗紀さん

利府町には、産業・文化の発展の痕跡を感じる場所が町内各地にあります。特に春日窯跡群からは、瓦や須恵器(すえき)の炭窯跡が多数みつかり、古代の一大生産拠点であったことがうかがえます。その遺跡を、アクセサリ作家 Carlotta 大宮紗紀さんと巡ってみましょう。

赤沼字大貝
大貝窯跡
8~9世紀にかけてこの場所には瓦や須恵器をつくる窯があり、多賀城やその周辺に供給する重要な役割を果たしていたと言われていました。須恵器は、古墳時代から平安時代にかけて生産されていた灰黒色の陶質土器のことで、

東部地区子育て支援センター
ペア・きっず近くにある
大貝窯跡の案内板

1 打ち合わせコーナー

事務所の打ち合わせコーナーに置かれた飛沫感染防止用アクリル板は、支柱にステンダグラスのデザインが組み込まれ、アクリル板にも反射を抑える加工を施したオリジナル製品。

市町村のキャラクターや企業のロゴマークデザインの銘板のオブジェなども製作。利府町の観光PRキャラクター「十符の里の妖精リーフちゃん」を配したシンボルデザインは、オリジナル塗装でカーラステンレス風に仕上げたベースと、レーザーで切り抜いたキャラクター形のシートを組み合わせたものです。



2 アクリル・シート加工

4 レーザー加工

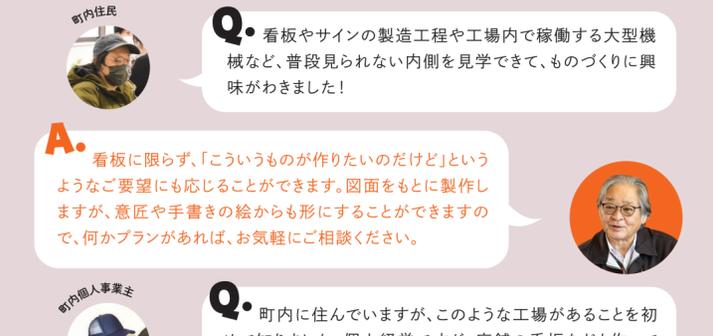
第一工場2階のレーザー加工エリアでは、レーザー加工機で板材を文字型や絵型に抜く作業をしています。コンピュータからデータを伝送すると、数分で加工が始まります。細かさは2mmくらいまで対応可能です。実際に作業中の社員が、アクリル板を数字の型、ウサギやリスなど動物の型に抜いて見せてくれました。



3 板金・溶接加工、塗装

5 製品の仕上げ

第二工場は塗装、組み立て、取り付けなど、製品の仕上げを行うエリアです。私たちが日頃よく目しているお店の看板や、ショッピング施設内の案内板などがここで仕上げられ、街中に設置されます。



Q. 看板やサインの製造工程や工場内で稼働する大型機械など、普段見られない内側を見学できて、ものづくりに興味がありました!

A. 看板に限らず、「こういうものが作りたいのだけ」というようなご要望にも応じることができます。図面をもとに製作しますが、意匠や手書きの絵からも形にすることができますので、何かプランがあれば、お気軽にご相談ください。

Q. 町内に住んでいますが、このような工場があることを初めて知りました。個人経営ですが、店舗の看板なども作っていただけるのですか?

A. 文字看板はもちろん、絵看板などの製作も可能です。ブライスカードのような小さなものも作ります。1枚1枚ラミネート加工を施したり、お店のロゴやイラストを入れたりすることもできます。

Q. しらかし台工業団地で働いていますが、これまで他の企業の事業内容を知る機会がありませんでした。今回見学させていただき、いろいろ参考になりました!

A. これからは、木材加工、アクリル加工、鉄製加工などそれぞれの会社が得意とする技術を生かし、利府町内の異なった分野の方々とコラボしたオリジナル製品づくりもしていきたいですね。一例として、現在南三陸町の丸平木材が取り扱う南三陸杉を天板に使用したテーブルの製作、商品化に取り組んでいます。

2021年11月には「ALL RIFU産業祭」に出展し商品をPR。また、優しい灯りと子どもたちの絵で会場をいろどった灯籠の提供にも協力しました。

製作現場を実際に見て体感することで生まれるイノベーション

今回の見学ツアーは、製作の現場を体験することでものづくりへの理解が深まり、新たなアイデアの創発の場となることをねらったものでした。町内には、まだまだ優れた技術やノウハウを持った企業がありそうです。地域産業の可能性を引き出し、イノベーションを加速させる手立てとして、今後も地元企業の見学ツアーを実施していきたいと思っています。

利府町のものづくり文化

案内人 ● Carlotta 大宮紗紀さん

利府町には、産業・文化の発展の痕跡を感じる場所が町内各地にあります。特に春日窯跡群からは、瓦や須恵器(すえき)の炭窯跡が多数みつかり、古代の一大生産拠点であったことがうかがえます。その遺跡を、アクセサリ作家 Carlotta 大宮紗紀さんと巡ってみましょう。

赤沼字宮下
染殿神社
いつ誰が造ったかは定かではありませんが「かり草(刈安)神社」と言われていたようです。刈安(かりやす)とは、染料として昔から使われているイネ科の植物のことで現在でも染料として使われています。

御祭神は、染殿姫命という女性の神様が祀られています。都から来た高貴な女性が、赤沼の女性たちに手芸や染物の技術を教え授けてくれたという伝説が残っています。

手しごとの醸成を折念して、染殿神社の鐘を打ちました。

染殿神社から見下ろす位置に赤沼があります。染殿神社の伝説に出てくる女性が出産し、その産着を洗ったところ、沼が赤くなったことから赤沼と言われるようになったそうです。

鮮やかな黄色
刈安染め
(利府町教育委員会提供)

春日小橋元
春日大沢窯跡
奈良時代末期から平安時代初期にかけて、国府多賀城の瓦を造ったとあり、大沢窯跡の近くには、現在でも「瓦焼場」という地名が残っています。昔から瓦の産地であったことを想像させます。

白鳥がいました!

赤沼

春日字現沢
現沢窯跡
利府町の土が瓦の材料に適した粘土質であること。赤沼の地形が窯を作るのによい傾斜地であったこと。さらに、自然豊かで燃料となる樹々も多かったことが、多くの炭窯があった理由のようです。利府町があったからこそ、貞観の大震災によって被災した国府多賀城が再建できたのかもかもしれません。

「宮城郡」と刻まれた須恵器
(利府町教育委員会提供)

現沢窯跡の案内板は、春日パーキング付近の高架入口にあります。

利府町は古来からのものづくり文化が盛んな地域だったことを知り、これから利府のものづくりが発展し続けるよう、現代に生きる私たちも元気にものづくりをしていきたいと、あらためて感じました!

春日字現沢
現沢窯跡
利府町の土が瓦の材料に適した粘土質であること。赤沼の地形が窯を作るのによい傾斜地であったこと。さらに、自然豊かで燃料となる樹々も多かったことが、多くの炭窯があった理由のようです。利府町があったからこそ、貞観の大震災によって被災した国府多賀城が再建できたのかもかもしれません。

現沢窯跡の案内板は、春日パーキング付近の高架入口にあります。

利府町は古来からのものづくり文化が盛んな地域だったことを知り、これから利府のものづくりが発展し続けるよう、現代に生きる私たちも元気にものづくりをしていきたいと、あらためて感じました!



17人目

-お名前

鈴木善幸さん

-なにをしているひとですか？

利府町に工業用機械刃物の製造工場をもつ株式会社トオハの代表取締役社長です。



宮城県利府町から生み出された卓越した技術とともに躍進する

株式会社トオハは、工業用機械刃物の設計、製造、販売および、再研磨業務を一貫して行う会社です。お客様のニーズに沿った製品の提供を目指し、1961年の創立から60年を迎えました。1988年に、事業分野と諸設備の拡充整備を推進するため、仙台市宮城野区から利府町しらかし台工業団地に移転し、現在に至ります。社長の鈴木さんに工業用刃物を製造する工場内を案内してもらいながらお話を伺ってきました。

先端技術と熟練の技術を受け継ぐ

株式会社トオハは、株式会社東洋刃物のグループ会社として設立しました。東洋刃物(本社・富谷市)は、1925年に金属学の世界的権威である東北大学の本多光太郎博士との産学連携で設立された会社です。当時工業用刃物は海外製品がほとんどで、国産で製造できる工場がなかった中、先駆的な存在でした。当初トオハでは、使い込まれた工業用刃物の再研磨を主たる事業としていたそうです。機械に取り付けられた刃物は、使用しているうちにエッジが丸くなり切れなくなってくるので再研磨をしますが、一部は手作業で行うこともあり、熟練した技術が求められました。

現在は、再研磨業務とあわせて製品注文に応じて設計から製造、販売を一貫して行っています。扱う刃物は、包丁やハサミなどの家庭用刃物ではなく、製造現場で使われる工業用機械刃物です。その種類は、鉄鋼用、合板用、製紙、木材(パルプ)、製本用、精密産業用、段ボール用、粉砕用と多岐にわたります。

産業を支える工業用機械刃物

工業用機械刃物は、主に平物と丸物があり、平物は、大きな包丁のような板状の形で、自動車の製造工場などでは、鉄や金属板切断用の大型シャープレードや棒鋼やアングルバーを切断するコールドシャワーが使われています。印刷物や書籍の紙製品を切断する断裁刃、パルプの原木を製紙原料用木材チップに粉砕する刃も平物です。

丸物は、円板の外周に刃物が付いて、回転しながら対象物を切断していきます。電子部品用として、PETフィルム、紙テープ、ゴムシートをスリットするナイフ。ダンボール箱を製造する工場でダンボールシートの溝切りに使用されるナイフ。食品用では、食肉ハムの切断に使用するスライサーなどがあります。

様々な製品がある中で、現在はダンボール用刃物がトオハの主力製品となっていて、自社生産の40%を占めています。コロナ禍になって宅配需要が伸びるなか、ダンボール箱の生産が増加しているそうです。「現在、全国シェア20%であるこの部門を40%以上に伸ばしていきたい」と鈴木社長は考えています。その他、産業廃棄物関係の粉砕刃の受注も好調で、リサイクル工場などでペットボトルを粉砕する際に使う刃物にも力を入れています。

製造現場を拝見

鈴木社長に製造過程を案内してもらいました。工場前の敷地に積ま



れた鉄板などの生素材から、製品図面をもとに素材をカットしたり穴をあけたりして、基本の形をつくり出します。工場内でフル稼働する大型機械とそれを操作し作業する方の手を通して、切削加工を施し成形。焼き入れと呼ばれる熱処理の作業は、東洋刃物熱処理工場に運ばれて行われます。焼き入れをすることにより硬度が増し、表面が黒くなった状態で再び工場に戻ってきた刃物は研削作業へ。刃を研ぎ出し表面を研磨しピカピカに仕上げた完成。切れ味鋭い刃物となって納品されるというのが、一連の流れです。

ここで出来上がった刃物は、様々な分野の工業用機械に取り付けられ、全国のものづくりを支えています。また、輸出先は、北米・南米、オセアニア、ヨーロッパ、中東、中国、東南アジアと海外に広がっています。

創業から60年の節目

2021年に創業60年を迎えました。ここ数年で創成期から会社を支えてくれた生え抜きの社員の方々が任期満了を迎え退職することになり、50人程いる社員の約2割が新人と入れ替わりました。「工場で働く社員を集めることが難しい時代です。社員に対しては、休日や勤務時間など職場環境を良くする努力をしています。新入社員の多くが再就職ですが、定着率は良いほうだと思います」といいます。

「会社自体も還暦60年を迎えて、生まれ変わろうという転換期です。これからは先輩たちが培ってきた加工技術を継承し、新しい人材を育てながら、お客様のニーズに応じた工業用刃物の製造に尽力していきたいです」と話してくださいました。

取材 渡邊木花
文 葛西淳子

利府町で活躍する事業家を毎号紹介していきます

十符(とふ)とは? ……昔、利府町の湿地帯には、良質な菅(スグ)草が自生し、「菅藪(スガコモ)」と呼ばれる敷物が作られていました。その菅藪の編み目が10編あることから「十符の菅藪」と呼ばれ、みちのくの「敷枕」としてもうたわれていました。これが、「十符の里」「十符の浦」と呼ばれるようになり、十(と)が利(と)に、符が府に変わったと言われています。

from RIFU-CHO CHALLENGER

— CHALLENGER
アトリエ ジェルメールブルー
atelier germerbleue

清水晴佳さん



一人ひとりに寄り添うレッスンがしたい

ママと子どもと一緒に季節の花を楽しめる「親子で通える」お花の教室を作りたい。そんな思いを胸に、清水さんは2021年3月に千葉県から宮城県利府町に移り住み、その年10月、自宅の一室にフラワーアレンジメント教室をオープンしました。教室名のジェルメールブルーとは、フランス語をもとにして考えた「germer(芽吹く)+mer bleu(青い海)」という造語です。一人ひとりに芽生えたものが、青い海のように大きく、深く、成長していくように願って名付けました。レッスンは、小さな子ども連れでも気兼ねなく通える1枠1組の花育親子レッスンをはじめ、仕事や育児のリフレッシュに、資格取得を目指してなど、それぞれの目的にあったプログラムを組んでいます。

好きな花の仕事をしたいと、一念発起

結婚後、会社勤めをしながら趣味の一つとしてはじめたフラワーアレンジメント。6年続いているうちに花を扱うことが楽しくなり、「いつかお花の教室を開きたい」と思うようになったといいます。転機となったのは出産を経た32歳の時。「やっぱり好きな花の仕事がしたい」という思いがふくらみ、実経験を積むために花業界へ転職。ブライダルフラワーコーディネーターとして働きながら、2年間花仕事の基礎を学びました。そして夫の転勤を機に、利府町で念願のフラワーアレンジメント教室をオープンする運びとなりました。利府町には永住するつもりだと清水さん。選択の決め手は、自然が豊かなこと、子育てしやすいこと、そしてtsumikiという起業支援施設があったことだそうです。利府町で起業するにあたり、地域の情報収集、事業経営相談のためtsumikiを訪問。スタッフのアドバイスを受け、tsumikiの「こ・あきない市」などマルシェイベントに出店し活動の幅を広げています。

「花育」をとおして、子どもたちの成長を楽しみたい

もう一つ、清水さんのプロフィールのなかで、特徴的なのが「花育士」という資格です。花育とは、子どもが花や緑にふれあうことで、心の豊かさを育む活動です。3歳〜小学生を対象としたレッスンでは、季節の花を使って季節毎の行事をテーマに作品を作ります。「子どもたちの感性のおもむくままに自由に創作することで、自分で考える力や創造力を身につけてほしい」と清水さんはいいます。作品を写真で綴る「花育アルバム」は、子どもの成長記録にもなる大好評です。

花育のコースは、この春からは個別レッスンの他に、月1回tsumikiを会場に少人数のグループレッスンがはじまります。「同じ花材を使っても、一人ひとり個性がある作品ができるので面白いです」。好きな花とふれあう贅沢な時間を、教室に通う親子とともに共有する充実した日々が続いています。

取材・文 葛西淳子

“花に魅了され”
夢の実現に向けて
一步一步前進



キッズ花育とフラワーアレンジメント教室
atelier germerbleue

☎ 090-7211-6734
🌐 <https://ateliergermerbleue.localinfo.jp/>
📷 instagram @atelier.germerbleue



tsumiki TOPIC

【利府の魅力再発見！「ハマスカPRフェア」開催】



利府町浜田・須賀地区(通称:ハマスカ)をPRするイベントが、2月23日(水・祝)にイオンモール新利府南館1階ライブスクエアを会場に開催されました。生りのり、焼きのり、ワカメ、牡蠣などの海産物の販売のほか、浜田地区の飲食店から「瀧さわ家」の稲庭うどんや「MOLAMOLACAFE」のコーヒー豆などの出品もありました。また、紙ハゼ釣り、段ブロック船づくり、ハマスカすごろくなど海に関連する体験ワークショップが行われ、親子で楽しむ姿が多く見られました。ライブスクエアの壁にある大型ビジョンでは、ハマスカのPR動画が放映され、多くの方が視聴していました。SUP(スタンドアップパドルボード)コーナーには海の写真の展示もあり、来場者からは「実際にSUPをして

いるような写真が撮れる」との声も。利府町の海・表松島「ハマスカ」は、魅力いっぱい地区です！tsumikiもこれまで、交流会やこ・あきない市などで地区の事業者の方々とコラボしてきました。今後も、ハマスカの魅力UPの取り組みを応援していきたいと思っています。

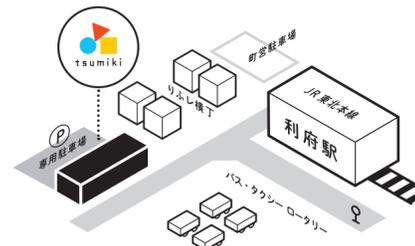
※このイベントは、宝くじの社会貢献事業として、コミュニティ助成金(100%補助)を活用して開催されました。



利用時間
9:30-17:30
(水・金曜日は21:00まで開館)

休館日
火曜日・年末年始

〒981-0104
宮城県宮城郡利府町中央1-5-2
TEL 022-766-9231
FAX 022-766-9232
Email info@rifu-tsumiki.jp



設置運営 利府町(商工観光課シティセールス係)

管理運営(業務委託者) 一般社団法人Granny Rideto

利府町では、地方創生に向けて良好な住環境に「ワクワク感」をプラスした魅力的なまちづくりを進めています。起業・創業や「利府ならではの」シティセールス政策や、移住・定住政策などに取り組んでいます。同時に「Granny」には「おせっかい」という意味があり、地域のおせっかいはやく役割を担うという意味が込められています。

Granny Rideto(エスペラント語)は、日本語で「おばあちゃんの笑顔」と訳します。これから高齢化社会を迎える中で、おばあさんになっても笑顔で暮らせる社会をつくりたいという意味が込められています。同時に「Granny」には「おせっかい」という意味があり、地域のおせっかいはやく役割を担うという意味が込められています。

公式ウェブサイト
rifu-tsumiki.jp

Twitter
@rifu_tsumiki

Facebook
〈tsumiki〉で検索

Instagram
@rifu_tsumiki

📍「つみきのキモチ」は、利府町内を中心に隣接する市町村の公共施設、カフェ、店舗などで配布しています。

つみきのキモチ vol.17 発行日●2022年3月31日 発行●利府町 企画●一般社団法人Granny Rideto 編集●葛西淳子・五十嵐千晶・桃生和成(一般社団法人Granny Rideto) デザイン●伊藤谷美貴(Interagie)

-会社の情報 株式会社トオハ

📍 利府町しらかし台6-3-5
☎ 022-356-5041(代)
✉ toha@toha.co.jp
🌐 <https://www.toha.co.jp/index.html>

